



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2020年11月24日 第996号「週刊五十嵐レポート」

小さな会社は・・・

11月21日付日経新聞に「JTB、6500人削減」の記事。JTBは、店舗の25%の閉鎖やグループ人員6500人の削減など盛り込んだ事業構造改革を発表。旅行業界は予約サイトを使った宿泊が増え、ネット化の立ち遅れで顧客を奪われ、新型コロナの流行で団体・法人向け需要も蒸発。業態縮小に迫られた。固定費カットへ大幅な店舗削減と人件費の圧縮(早期退職と賞与・月例給を合わせ約3割の削減)。大企業も生き残りをかけて大ナタをふる。

コロナの影響を受けているのは大企業ばかりではない。小さな運送会社はようやくコロナ前の8掛けまで回復し、単月で黒字化。小さな製造業はコロナ禍で大口顧客に直接の面談ができなかった。リモートでテレビ会議ができるようになったが条件折衝は難しい。コロナ前の売上の8割でなんとか収支トントン。小さな卸売業もコロナ前の8割～9割の回復。大手が手を出さない隙間になんとか活路を見出し、そこを強みにする。

小さな会社を30年経営している社長の話。若い時はイケイケGO GOの時もあった。今大事にしていることは会社を潰さないこと。社員を守ること。経営を学んで、身の丈に合った経営をする。無理に拡大しない。リーマンショック後は一気に債務超過。そこで目覚めた。それ以降は黒字経営。コロナの影響はこれから起きる業界。来年度は、売上は前年度より下げる固めの計画。無理に業績を伸ばせることもできるが、組織を疲弊させクレームを出し、結局は顧客への信頼が失墜するリスクの方が高い。上場企業とは違い、成長性や利益率を問われることはない。そのかわり、自ら戒めていく必要がある。利益を出し、税金を払い、自己資本を蓄積していく。この当たり前のことをしないと潰れない会社はできない。

利益を出すには、同業者よりも有利な条件で粗利益が補給される根拠を作る。根拠とは顧客から指示される「強み」。細分化されたところでの一番化。日刊帝国ニュースでは毎日倒産の記事。小さな会社の社長は、経営の研究はもちろん、欲深さを押さえ、自己中心に陥らないように倒産事例から謙虚に学ぶ。これから冬。春になるための準備のとき。

ちょっと
気をつける出来事

11月22日付日経新聞のトップ「感染地へのGo To 停止」。政府は21日、首相官邸で新型コロナ対策本部を開き、観光需要喚起策「Go To トラベル」事業を一部制限すると決定。国内の感染者数は4日連続で2千人を超え。

東京の数字を見てみる。第2波のピークは8月10日前後。入院者1,710人(8/11)重症者39人(8/23)、宿泊443人(8/10)、自宅療養745人(8/17)、調整1,125人(8/8)、感染者数3,760人(8/10)。

第3波、11月22日現在までのピークは、入院者1,462人(11/22)、重症者41人(11/14)、宿泊832人(11/22)、自宅720人(11/22)、調整832人(11/22)、感染者数3,846人(11/22)。このままいくと感染者数は4千人を超える。

政府も専門家たちは国民に、マスク、手洗い、3密を避けること要請。これは「戦術」活動。戦術活動だけでは防御は出来てもコロナを撲滅することはできない。多くの日本人が嫌っている中国は、一点集中、重点主義、各個撃破主義でコロナを鎮圧させた。これは「戦略」。

日本は戦略が打てない。戦術だけでカバーしている。後はワクチン待ちしか手はないのだろうか。



一口メモ
知識

見違えるほど人生が変わるコツ

「どうせ今日も同じような一日だろう」という気持ちでいたら、人生はおもしろくありません。

「今日はどういうことになるかわからない。よし、ひとつチャレンジしてみよう」という気持ちで過ごせば、人生はおもしろいのです。

そんな心構えでいれば、智慧が湧いてきます。仕事もよくできます。

ストレスもたまりません。やり甲斐が生まれます。

そういう態度で、たった一週間でも暮らしてみてください。

すると、見違えるほど人生が変わります。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムツレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時～6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

